

特別養護老人ホーム

宮本 勲（筑波園）

筑波山のふもとに位置する筑波園では、昔、部屋から風呂場までの移動に、小型のフォークリフトを特別に改造してもらい、人を運べるようにして、使っていたこともあります。また、排便排尿を吸い取ってくれる機器やベットのシーツ交換などのときに人をハンモックで吊るようにして作業をやりやすくする機器など、現場の苦勞から出たアイデアや課題など宮本さんより以前お聞きしたことがあります。そこで、最近またお話を伺ってみました。ちょうど建物更新の準備している最中でした。

福祉法人の特別養護老人ホームと医療法人の病院は見た目が似ていてもかなり運営システムが異なる。基本的に補助や寄付で成り立っている。例えば土地は無償で提供される必要があり、一般企業のように運営で得た得たお金を土地代などの借金返済に当てたりすることはできない。また建物の外構、庭、駐車場などには補助金は出ない。理事長には給与はない。補助費も老人に使える予算と職員で使える予算と区別されており、電気代など、老人のいる部屋と職員のいる部屋と細かく分けて計算している。食事費は一日一人840円でまかなって栄養士もいて栄養管理している。デイサービスの施設も併設しており、一般に介護講習でノウハウを指導する義務がある。しかし、講習料は無料で、お金を取ってはいけないことになっている。以上のような状況で、高価な機器購入は困難であったが、介護保険施行後は様々な面が多少変わっていくと思う。

今年、現在の建物を壊し、新築するが、各部屋でタッチパネルを利用して記録を登録（例えばオムツ交換を2時にしたとか）できるようになる予定で、経過記録がすぐに取り出せるようなシステムを導入し、今までよりもお世話している人の記録を取るのが楽になる。口頭で言ったことが、記録されるシステムだとさらに便利である。ベットロボットのような機器が患者の生理的情報（体温、脈拍など）取得やコミュニケーション機器となっていていろいろ知らせてくれるようになり使い勝手がよくなると使用される可能性が高くなると思う。

オムツ交換の際、排便排尿を吸い取ってくれる機器が前からあると良いと思っていたら、販売され始めた。老人には下剤はなるべく飲ませないで、適切な食事や飲み物などで体調を整えるようにしている。なるべく薬は使わない。他には特に移乗（ベッドから車椅子などへの移動）と入浴が大変。入浴の際の移乗では2人かかりで行っている。他の施設での移動入浴では3人かかりで行って1日4箇所位しかできない。1人でも移乗できるような支援機器、入浴システムができると助かると思う。

（聞き手・文責 小野栄一）